



### 「すぐ帰れる」サービス

「診療が終わったら会計を待たずにすぐに帰りたい!」という方は、クレジットカードとスマートフォン(パソコン、タブレットでも可)があればすぐに登録でき、その日の外来支払から利用できる「すぐ帰れる」サービスをご利用ください。QRコードを読み取り、必要事項を登録すれば完了です。登録した患者さんは、1階計算の専用窓口か3~4階エスカレーター脇の保険証確認窓口で受付後、会計を待たずにそのまま帰宅することができます。是非ご利用ください。



### 全診療科における完全紹介制の導入

当院では全診療科において、完全紹介制とさせていただきます。当院に初めておかけの場合、新たな診療科におかけの場合、前回の来院より3ヶ月以上経過している場合は、原則として他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要となります。

《例》他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要になるのは…

- ・ある科を受診中の方で、別の診療科を初めて受診したい場合
- ・過去に受診した診療科でも、自己判断により3ヶ月以上受診がない場合

完全紹介制を導入した経緯は、専門的な診療を提供する大学病院としての使命と役割を果たすためですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。



### 献体のご案内

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

■ 問い合わせ先  
東京医科歯科大学献体の会事務局  
TEL: 03-5803-5147



### セカンドオピニオン外来

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に通院している患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にさせていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申込みください。通常の外来受診とは異なりますのでご注意ください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、診療情報提供書や資料を用意いたしますので、担当医にお申し出ください。

■ 問い合わせ先  
セカンドオピニオン外来  
TEL: 03-5803-4568 平日9:00~16:00



### 東京医科歯科大学病院支援基金のお願い

先端医療の開発推進や診療体制の充実、診療環境整備を行い、患者サービス改善のため活用させていただきます。基金です。

一口1,000円からお申込みいただけます。

詳しい内容については、下記までお問い合わせください。

■ 問い合わせ先  
東京医科歯科大学募金室  
TEL: 03-5803-5068  
E-mail: bokin.adm@tmd.ac.jp



### 新型コロナウイルス感染症対策基金のお願い

#### 新型コロナウイルス感染症対策基金にご協力ください

東京医科歯科大学は2つの基本理念で、新型コロナウイルス感染症に正面から取り組んでいます。



医科歯科コロナ対策HP

- 東京医科歯科大学では「病院における新型コロナウイルス感染重症・中等症陽性患者の受入体制の構築」を、最優先事項に位置付け、全学的な支援を行っております。
- ポスト新型コロナウイルス感染症の社会に備えた医療体制を整えます。ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



基金HP

東京医科歯科大学病院 広報誌「オアシス」17号(令和4年9月)  
発行 東京医科歯科大学病院 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 東京医科歯科大学病院総務課  
デザイン・SOYA 編集・宇山恵子 撮影・田山達之  
オアシスについてのご意見・ご感想はpr-hosp.adm@tmd.ac.jpまでご連絡ください。  
本書の無断複製(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。



TMDU 東京医科歯科大学

広報誌「オアシス」第17号

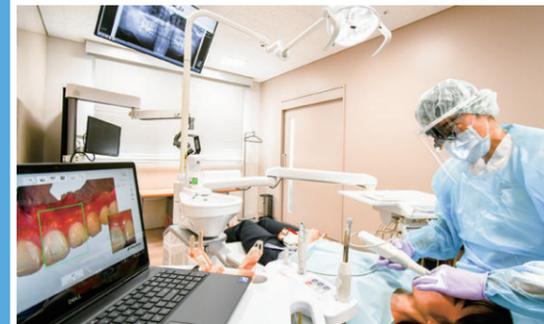
No.17

2022年9月

## 東京医科歯科大学病院



# オアシス



### INDEX

- 病院長メッセージ
- 首席副病院長メッセージ
- 副病院長・病院長補佐ご紹介
- 新設診療科・新設センターのご紹介  
臨床腫瘍科、再建形成外科、感染症内科、メンタルヘルス・リエゾンセンター、オーラルヘルスセンター、
- 新設専門外来のご紹介  
アスリートメンタルケア外来、プレコンケア(PCC)外来
- 新任科長・部長・センター長メッセージ  
病理診断科、潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター、歯科技工部、緩和ケア科、むし歯科、臨床腫瘍科、再建形成外科、スポーツ歯科外来、総合診療科、食道外科、歯科放射線科、心臓血管外科、先端歯科診療センター、血液内科 がん先端治療部
- すぐ帰れるサービス/全診療科における完全紹介制の導入/セカンドオピニオン外来/献体のご案内/梅いち輪募金のお願い/新型コロナウイルス感染症対策基金のお願い

# 病院長メッセージ



## 内田 信一 病院長

東京医科歯科大学病院は2021年10月1日に2つの病院が一体化して間もなく1年を迎えます。たくさんの方々の患者さんや当院を支えてくださる皆様のおかげで、「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」という理念のもと、順調に歩み続けています。

当院は2020年からは新型コロナウイルス感染症対策にも積極的に貢献しています。2022年7月から始まった第7波でも中等症・重症の患者さんを受け入れています。困難な局面に対しても「コロナから患者さんと仲間を守る」というスローガンの下で、職員全員が一致団結し、大きな力を発揮しています。

病院広報誌「オアシス」17号では、新任の診療科長、部長、センター長などのメッセージや、医科と歯科の特徴を生かして生まれた新しい連携サービス、専門外来などをご紹介します。

2023年度に完成予定の機能強化棟（C棟）はその名のとおり、免震構造、自家発電システム、医療情報の管理など、災害時に強く、病院を守る機能を強化しています。それだけでなく、地上7階、地下2階で、交通アクセスもさらに充実する予定で、地域の人々が集うスペースも提供する準備を進めています。現在も工事が進んでおり、ご利用される皆様に、引き続きご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

# 首席副病院長メッセージ



## 新田 浩 首席副病院長

2022年4月1日より、首席副病院長として「歯系診療部門」の統括という役目を担うことになりました。昨年10月1日に病院一体化がスタートして半年が経過し、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士を含めた医療スタッフ、事務スタッフの診療、教育、研究面で医歯連携の意識がさらに高まっております。この機運を育みながら、世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供していくことを使命として精進してまいります。

私の専門は歯周病で、かなり前から歯周病と糖尿病や骨粗鬆症など、医科の病気との関係について研究しています。歯周病を治し、義歯を入れ、口腔機能を回復することで、糖尿病などの全身疾患が改善する、全身的に不調だった患者さんの体調が回復するという経験を積み重ねる中で、本院が掲げる「医科歯科連携のトータル・ヘルスケア」の重要性を実感してまいりました。

歯系診療部門では患者さんの多様なニーズにお応えするため、「スポーツ歯科外来」、「歯科心身医療科」、「顎顔面補綴外来」、「言語治療外来」、「歯科アレルギー外来」、「摂食嚥下リハビリテーション科」、「息さわやか外来」、「歯科ペインクリニック」、「顎関節症外来」などを設置しております。さらに、それぞれの得意分野を持つ専門医集団がお一人ひとりの患者さんに対して包括的にアプローチし、それぞれの分野でのハイレベルな歯科治療を集約して提供する「先端歯科診療センター」もごございますので、ぜひご利用ください。

## 副病院長・病院長補佐のご紹介

副病院長（医療安全）※筆頭	藤井 靖久	病院長補佐（感染）	具 芳明
副病院長（診療・地域連携）	小池 竜司	病院長補佐（救命救急）	大友 康裕
副病院長（手術・先進医療・働き方改革）	堤 剛	病院長補佐（集中治療・ベッドコントロールセンター）	若林 健二
副病院長（教育・診療報酬）（歯系）	木下 淳博	病院長補佐（災害）	植木 稔
病院長補佐（診療整備・内科）	宮崎 泰成	病院長補佐（ウイルス制御）	武内 寛明
病院長補佐（診療整備・外科）	大野 京子	病院長補佐（経営改善）	秋葉 泰樹
病院長補佐（メディカルスタッフ）	高橋 弘充	病院長補佐（サービス・環境整備）	浅香 えみ子
病院長補佐（診療報酬）	藍 真澄	病院長補佐（再整備・医療安全）（歯系）	水口 俊介
病院長補佐（医療連携・広報）	井津井 康浩	病院長補佐（臨床研究・教育等）（歯系）	森山 啓司
病院長補佐（臨床研究）	小池 竜司	病院長補佐（手術・病棟・医歯連携等）（歯系）	原田 浩之
病院長補佐（安全管理）	工藤 篤	病院長補佐（感染対策・働き方改革）（歯系）	岩田 隆紀

# 新設の診療科・新設のセンターのご紹介



## NEW 新設の診療科

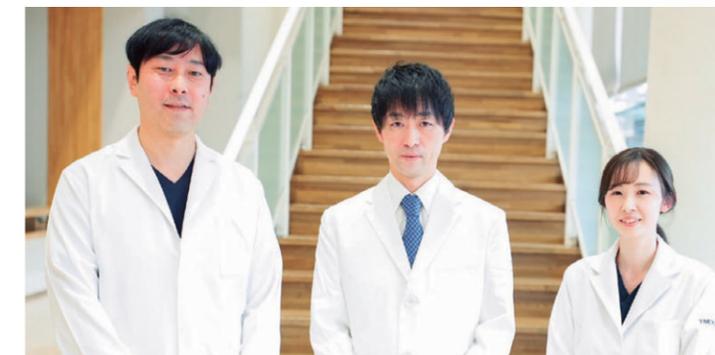
### 臨床腫瘍科

取り扱うおもな疾患：大腸がん、胃がん、頭頸部がん、希少がんなど  
科長：末永 光邦



臨床腫瘍科は2022年4月にスタートし、4大がん治療のうち、薬物療法（化学療法）と免疫療法（免疫チェックポイント阻害剤）を担当します。がんの診断の時期、進行病期（ステージ）、進行状態などは

患者さんごとに異なるため、外科手術や放射線治療の適応があれば、これらを組み合わせることも当科の役割です。



そのため、患者さんごとに他科と連携して最適な治療方針を提供しています。薬物療法に関しては日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医（腫瘍内科医）を中心に治療方針決定から臨床実地まで行い、専門性の高い医療を提供しています。臨床腫瘍科はがんゲノム診療科と緩和ケア科と連携しています。がんの標準療法が効かなくなった場合でも患者さんの状態が安定していれば、がんゲノム診療科で遺伝子パネル検査を行い、新薬・治療などの治療選択肢がないか模索する体制が整っています。一方、がんに伴う症状の緩和については緩和ケア科と医療連携支援センターのサポートのもと、患者さん・ご家族のQOLを高められるように心がけています。  
\* 8ページに関連記事があります。

### 再建形成外科

取り扱うおもな疾患：頭頸部頭蓋底再建手術、術後顔貌変形に対する二次修正手術、顔面神経麻痺に対する集学的治療、頭頸部領域の皮膚悪性腫瘍、その他各種再建手術など  
科長：田中 顕太郎



再建形成外科による手術の様子

2022年6月からスタートした再建形成外科はマイクロサージャリー（顕微鏡を用いて細い血管や神経をつなぐ技術）を用いる組織移植手術を日常的に多く行う高い技術を持っています。頭頸部を中心に、治療が困難な再建手術を必要とする患者さんの治療に積極的に取り組み、身体各部位の機能と形態の再建を目指します。

形成外科という診療科は対象とする疾患や部位、治療法が多岐にわたります。なかでも癌の切除などによって失われた身体の組織を修復し機能と整容性を取り戻す治療を再建手術と言います。当院で特に多く行われる頭頸部領域の再建手術を専門に行う診療科として、形成・美容外科から独立しました。

当科は典型的な切除症例に対する標準的な頭頸部再建手術を行うことは当然ですが、他の施設では治療が不可能な困難症例に対しても安全で質の高い再建手術を提供することができます。

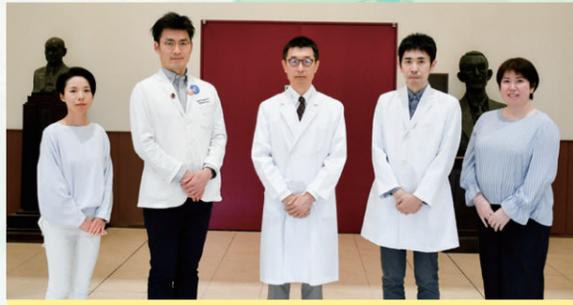
さらに腫瘍切除と同時に一次再建だけでなく、手術後に残存する変形や麻痺に対する二次再建手術にも積極的に取り組んでいます。また頭頸部領域のみならず身体各部位の治療困難症例の再建手術にも積極的に対応しています。

同じ疾患や病態であっても適切な治療は患者さんそれぞれで異なります。十分にお話を聞きながら、それぞれの方に最適な治療方法を選択してまいります。

\* 9ページに関連記事があります。

## 感染症内科

取り扱うおもな疾患：感染症全般（肺炎、尿路感染症、血流感染症、手術部位感染症など）  
科長：具 芳明



感染症内科は2021年10月に新たに設置されました。各科からの連絡に対応し、入院患者さんを中心に、さまざまな感染症の診断と治療を行っています。発熱など感染症が疑われる症状の原因となっている微生物を突き止め、その微生物や患者さんの状態に合わせて最適な治療法を選択します。各科の担当医や検査部など関連する部署との連携を重視し、丁寧に方針を検討しています。また、感染制御部とともに抗菌薬の適正使用を推進しています。検査部や学内の関連分野と密接に連携し、感染症の原因となっている起炎微生物を正確かつ迅速に同定して最適な治療につなげています。2022年4月より外来診療もスタートしました。

## NEW 新設のセンター

### メンタルヘルス・リエゾンセンター

取り扱うおもな疾患：主に、せん妄の予防と治療、認知症患者さんの対応、妊産婦や骨髄移植患者さんの支援など  
センター長：竹内 崇



メンタルヘルス・リエゾンセンターは、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、歯科連携チーム、周産期メンタルケアチーム、移植患者メンタルケアチーム、患者相談チームの6つの医療チームから構成されています。各チームが円滑に活動できるようマネージし、患者さんに適切な医療が提供できるよう支援を行っています。具体的には、身体疾患を有した患者さんが、専門的なメンタルケアを必要とする場合に、それぞれの専門を持つ担当チームが支援を行っています。

### オーラルヘルスセンター

取り扱うおもな疾患：各診療科と連携しながら入院患者さんの口腔ケアなど、口の健康維持改善をサポート  
センター長：松尾 浩一郎



世界最高水準のトータルヘルスクアをコンセプトにした大学病院において、入院患者さんの口の健康を支えるオーラルヘルスセンターです。口は、栄養の入口であり、ともすると感染の入口にもなり得ます。入院中は、全身疾患や入院生活の影響で口の機能や衛生環境が悪化しや

すくなります。その状態を放置すると、食事摂取が進まなくなり、栄養状態の悪化や口由来の感染症を来すことがあります。当センターでは、医系と歯系を有する本大学病院の様々な診療科と連携しながら入院中の口の健康維持改善をサポートしていきます。

当センターは口腔外科、歯周病、老年歯科、歯科麻酔、障害者歯科などの専門医と専従の歯科衛生士により構成された部門です。様々な診療科に入院された患者さんの口腔内の問題に迅速に対応できるようスタッフ一同尽力いたします。

具体的には、全身麻酔手術後の合併症予防のために、術前から口の衛生環境の維持改善に務め、術後も口腔内にトラブルが起こっていないか確認します。また、全身の内科的な治療によって口の中に出現する合併症を予防するために、治療前・治療早期から口腔問題の早期発見・早期介入に務めます。もし、入院中に口腔内にトラブルが発生した場合や、食べる機能が低下した場合には必要に応じて迅速に対応いたします。東京医科歯科大学病院の特性を活かした病院横断的に多くの診療科や看護部などと連携して口腔ケアの推進に取り組んでいきます。

## 新設の専門外来のご紹介



### NEW 新設の専門外来

#### アスリートメンタルケア外来



プロ・アマを問わずスポーツ競技やダンスなどの演技を行っている方で、メンタルや睡眠に問題を感じている方が通院しやすい外来がスタートしました。メンタルの問題で困っているアスリートは多いと言われていますが、アスリート診療に理解のあるメンタルクリニック等は非常に少ないです。この専門外来の開設で、そのような症状を抱えて悩むスポーツ愛好家の通院先を提供したいと思いました。また、メンタルの問題で困っていても精神科といったところに通いにくいという気持ちのアスリートが多いと言われるため、スポーツ診療部内にこのアスリートメンタルケア外来を設立しました。通常の整形外科的な診療をしているスポーツ診療部と同じブースにありますので、通院しやすいと思います。

アスリートのメンタルの症状で多いのは不安、不眠、抑うつと言わ

れています。これらが気になった場合はご来院ください。原因不明のパフォーマンスの低下、活力の低下や、様々な病院（整形外科等）に通っても改善しない原因不明の体の不調、思い通りに巧緻運動ができなくなった、などももしかするとメンタルの問題が関係している場合があります。

また、担当医はてんかん専門医、睡眠専門医を取得していますので、てんかん発作があるが運動していいかアドバイスが欲しい方や、日中の眠気があって気になる方、パワータイプのアスリートだと睡眠時無呼吸が気になる方、内服している薬剤についてTUE申請をしたい方などもご相談いただけます。



#### プレコンケア (PCC) 外来



産婦人科では、妊娠を希望するすべての方を対象にした専門外来である「プレコンケア (PCC) 外来」を2022年8月にオープンしました。妊娠に関する高度な情報提供を希望される方はもちろん、持病をお持ちの方や高年妊娠、難治性不妊症まで幅広く相談に対応しております。

「プレコンケア (PCC) 外来」の名前は、「プレ (Pre)」＝「前に」、「前もって」という英語に、「コンセプション (Conception)」＝「受精」、「お腹の中に新しい命を授かること」、「ケア (Care)」＝「手入れ」、「管理」を組み合わせ作り、ニックネームのように親しみやすく、呼びやすい「プレコンケア (PCC：ピー・シー・シー) 外来」と名付けました。「持病があって自分の身体について色々聞きたい」「今飲んでいる薬は大丈夫？」「なかなか妊娠しない…」

「妊娠前の身体づくりに関して確かな情報が欲しい…」上記はほんの一例ですが、「プレコンケア (PCC) 外来」は、持病がある方、妊娠しにくい方、妊娠に不安や悩みを抱えている全ての方が、将来の妊娠のために、必要な健康状態のチェック、日々の生活に対するアドバイスなど、妊娠前の身体づくりに必要な正しい情報をご提供します。

当院の「プレコンケア (PCC) 外来」には以下のような特徴があります。**特徴1** 産婦人科を基盤としたプレコンセプションケアであり、現在の身体状況や、幅広い合併症が妊娠および次世代に及ぼす影響を総合的に判断し、個々にフォーカスしたオーダーメイドのプレコンセプションケアに力を入れております。

**特徴2** 妊娠前に知っておくべきワクチンや感染症の情報、自身の栄養や血圧・体重・生活習慣管理に関する確かな情報提供を行っております。

**特徴3** 合併症妊娠、難治性不妊症、超高年妊娠、がん生殖などに対する高度な医療を提供できる一方、その詳細な保健指導、および情報提供が可能です。

**特徴4** 合併症をお持ちの方はプレコンセプションケア外来受診後に、当院で治療を継続しながら妊娠・分娩計画を行うことにより、シームレスな連携が可能となります。





## 新任診療科長・部長・センター長 メッセージ

新たに着任した診療科長・部長・センター長から、  
それぞれの役割説明と患者さんへのメッセージをいただきました。

### 病理診断科(病理部) 大橋 健一先生

専門医資格等：病理専門医・指導医、細胞診専門医・指導医  
研究領域：食道癌など消化管癌の病理診断、腎生検診断、アミロイドーシスの病理



病理診断科(病理部)では患者さんの病気になる臓器を顕微鏡で観察し、腫瘍を中心とした様々な疾患を診断しています。病院で手術、生検された組織検体について、病理診断を行い、病名を確定します。さらに婦人科、呼吸器内科等で採取された細胞検体について、細胞診断も行います。不幸にも病院で亡くなられた場合は病理解剖を担当し、死因を究明し、将来の医療の発展に役立てています。

当科で扱う疾患は全身の疾患で、その中でもがんなどの腫瘍性疾患の診断が主な対象となりますが、炎症性疾患など様々な非腫瘍性疾患も対象としています。

診断の精度をより高めて、患者さんが安心してできるような医療体制の確立、維持に協力していきたく思います。病理診断などについて疑問がありましたら、主治医にお問い合わせ下さい。場合によっては病理部スタッフが直接対応することもできます。

機能強化棟(C棟)が完成すると手術数の増加が見込まれ、病理診

断を必要とする症例数が増加すると期待しています。病理部の役割もより大きくなると思いますので、気を引き締めて対応していきたく思います。



### 潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター 岡本 隆一先生

専門医資格等：総合内科専門医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医  
研究領域：消化器病学・再生医療



当センターは炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)の患者さんに対し、「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」をモットーに、関連診療科・部門が連携して専門診療を提供しています。センターの特徴は以下の4点です。

#### 1. 高度な専門医療を実践しています!

新規医薬品を含む積極的な内科治療を行います。小腸内視鏡検査による評価や高度な内視鏡治療、腹腔鏡による低侵襲手術の他、腸上皮移植・再生医療の開発も行っています。大腸肛門外科や放射線科、病理部などとの連携の他、専門ナースや専門栄養士との多職種によるチーム医療を実践しています。

#### 2. 患者さんに負担の少ない検査や治療を心がけています!

患者さんに負担が少ない検査や治療のため、MRIによる腸管病変の評価の他、適切なタイミングでの内視鏡検査の他、糞便検査による腸管病変の評価及び開発も行っています。

#### 3. 難治の患者さんを積極的に受け入れています!

大学病院を含む、他の医療機関から、重症や難治の患者さんを積極的に受け入れて、地域からの専門治療を望む声に応えています。また、多くのセカンドオピニオン外来の患者さんにも対応しています。

#### 4. 患者さんと一緒に治療ゴールを決めていきます!

患者さんの病状、社会環境や治療に対する価値観などを伺いながら、

治療方針が決定されていきます。今は、新規医薬品を含む積極的な内科治療及び外科治療により、多くの患者さんにおいて、病状の改善が期待できるようになっています。治療で改善が認められない患者さんにおいても、「何もできない」ということは決してありません。患者さんに寄り添いながら、双方が同意できる治療ゴールを探していきます。これまでの治療、これからの治療の中でよりよい選択ができるよう、当センターが皆さんのお手伝いをしていきます。



当センター医師による小腸内視鏡の実施風景

### 歯科技工部 金澤 学先生

専門医資格等：日本補綴学会専門医・指導医、日本老年歯科医学会、日本咀嚼学会理事  
研究領域：デジタルデンティストリー、高齢者歯科学、補綴系歯学



歯科技工部では、患者さんのお口の中に装着するセラミックスのクラウン(冠状の人工歯)、ブリッジ、インプラント上部構造をはじめとして、総義歯(総入れ歯)や部分床義歯(部分入れ歯)などの多種多様な装置を製作し様々なニーズに応えています。作業工程の最初から装置完成に至るまで、高度な知識と技術を持つ歯科技工士が責任をもって作業を担当し、日々高品質な技工物(装置)を製作しています。

部内には、Real Mode Studio(リアルモードスタジオ)と呼ばれる、デジタルデンティストリー(デジタルテクノロジーを応用した歯科医療)に必要なデジタル機器を一堂に集めたエリアがあります。これらの口腔内スキャナ、モデルスキャナ、ミリングマシン、3Dプリンタなどのデジタル機器やCAD/CAMシステム(コンピューター支援設計製造装置)を活用することで、セラミックスのクラウンやインプラント上部構造の製作の他、様々な歯科治療を迅速かつ高品質に行うことができ、従来法では叶わなかった新しい材料の導入や安定した供給など、生産性の向上や安全な構造設計の評価が可能になっています。

質の高い歯科医療の提供には、歯科技工士の高い技術力が不可欠となっております。

近年、デジタルデンティストリーの進展とともに、歯科技工を取り巻く環境も大きく変化してきておりますが、歯科技工部の伝統や経験で培われた匠の技術と、最新のデジタル技術を融合させ新たなシナジーを生み出し、高品質の装置の提供を通じて口腔の健康増進に貢献していくとともに、技術の伝承や次世代の歯科技工士の育成にも取り組んでいかなければならないと考えております。

歯科技工部の強みは、デジタルデータだけでは伝わらない「患者さんの気持ちや感覚、希望や要望」を経験豊富な歯科技工士が診療室に伺って直接確認することができる点にあります。これは診療室と歯科技工部が同じ院内にあるため実現しています。患者さんの気持ちや感覚などのアナログな情報を読み取り、それを匠の技術により製作工程に反映することで、より満足度の高い装置を作るように取り組んでいます。精密な手作業をベースに、金属やセラミックス、レジンなど様々な材料を取り扱い、その特性を熟知している歯科技工士は、言わばものづくりの匠の集団でもあります。現在では、3Dプリンタなどのデジタル機器を活用し、様々なものづくりを行うだけでなく、各種研究へのサポートなど活躍の場を広げています。



セラミックスのクラウン(冠状の人工歯)にステイニング

リアルモードスタジオ(Real Mode Studio)にてCADを操作

### 緩和ケア科 佐藤 信吾先生

専門医資格等：がん治療認定医、日本整形外科学会専門医  
研究領域：緩和医療学、臨床腫瘍学・分子腫瘍学、骨転移・骨軟部腫瘍、骨代謝



緩和ケアは、がんのみならず生命を脅かす疾患の早期から患者さんおよびそのご家族に提供され、治療中～治療終了後のQOL(生活の質)の向上に大きく貢献しています。当院には、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来が設置されており、様々な診療科・部門と連携しながら、患者さんのニーズと病態に応じた包括的な緩和医療を提供しています。

緩和ケア病棟は2017年4月に開設され、現時点では主に院内で診断・治療を受けたがん患者さんを対象とした診療を行っています。一方、緩和ケアチーム、緩和ケア外来では、がん患者さんのほかに、難治性疼痛を有する非がん疾患の患者さんや、心理社会的サポートを必要と

する患者さんへの対応も行っています。また、緩和ケア病棟を有する大学病院の数はまだまだ少ないことから、学生や研修医等に対する緩和ケア教育にも力を入れています。

「緩和ケア=終末期医療」というイメージを持たれている患者さんがまだまだ多いと思います。実際には医療者でもそのようなイメージを持っている人が多いのが現状です。私たちは、現在治療中のがん患者さんや非がん疾患の患者さんが抱える様々な身体的・精神的苦痛にも向き合い、適切なアセスメントを実施し、症状を最大限緩和できる治療介入を目指しています。



当院の緩和ケア科医師



緩和ケア病棟における多職種を交えたカンファレンス風景

## むし歯科 | 島田 康史先生

**専門医資格等：**日本歯科保存学会歯科保存治療専門医・指導医、日本接着歯学会接着歯科治療専門医・指導医  
**研究領域：**接着性修復材料の開発・評価、レジン充填材の審美的評価光干渉断層画像診断法(OCT法)によるむし歯診断新規漂白材の開発・評価、歯科用レーザーの臨床的応用、咬耗・酸蝕歯の予防・治療に関する研究、歯の再石灰化誘導材料の開発



当科では、むし歯などの疾患を正確に診断し、予防と機能・審美回復治療、先端の機械・技術を駆使した歯内療法(根管治療)の提供と歯の保存に努めます。

取り扱う主な疾患は、むし歯、知覚過敏、歯の咬耗、変色歯、歯髄炎、根尖性歯周炎などで、う蝕(むし歯)などの歯の硬組織疾患や、これらに継発する歯髄疾患、根尖性歯周疾患(歯の神経や歯根先端周囲の炎症)に対する専門的治療を行います。具体的な例としては、むし歯になりやすさを考慮・予測し、予防の大切さを伝え、最新の接着材料

を用いた歯に優しい治療を行います。また歯髄疾患、根尖性歯周疾患に対して、歯科用CTによる診断や実体顕微鏡下での治療などを組み合わせた、先進的な歯内療法を行います。

審美的な要求の高まりとともに、金属を使わない、本来の歯に似た白い材料を応用した、審美的むし歯治療や、変色歯に対する処置、歯の漂白についても対応いたします。根管は形態が複雑で直視困難なため、歯内療法が難しくなることが少なくありません。当科では、歯科用CTや実体顕微鏡の活用により診断、治療とも精度の向上を図っています。放射線を用いずに、妊婦にも安全に繰り返し使用できるむし歯の画像診断装置、歯科用光干渉断層計(OCT)については、本学と国立長寿医療研究センター、企業との間で共同開発を進めて2020年に事業承認が得られ、世界初の第1号機が運用スタートとなっています。

以上のように患者さんのお体への負担を少なくするように配慮しながら、質の高い歯内療法を提供することで歯を長く保存し、口腔の健康増進に貢献できることを目標としています。



放射線を用いない歯科用光干渉断層計(OCT)によるむし歯の画像診断



マイクロスコープ(高精度歯科用顕微鏡)を用いた根管治療

## 臨床腫瘍科 | 末永 光邦先生

**専門医資格等：**日本臨床腫瘍学会、がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本外科学会認定登録医、日本消化器外科学会認定登録医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医  
**研究領域：**消化器がん薬物療法の新規治療、消化器がん薬物療法の有効性と副作用に関する予測因子、がんサバイバーにおける倦怠感に対する運動の有効性



臨床腫瘍科は2022年4月に設立された新しい診療科であり、がん診療における確かな情報を提供し、エビデンスに基づく最新の治療を実践します。臨床腫瘍科は4大がん治療のうち、薬物療法(化学療法)と免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)を担当します。

がんの診断の時期、進行病期(ステージ)、進行状態などは患者さんごとに異なるため、外科手術や放射線治療の適応があれば、これらを組み合わせた集学的治療を提案するのも当科の役割です。そのため、

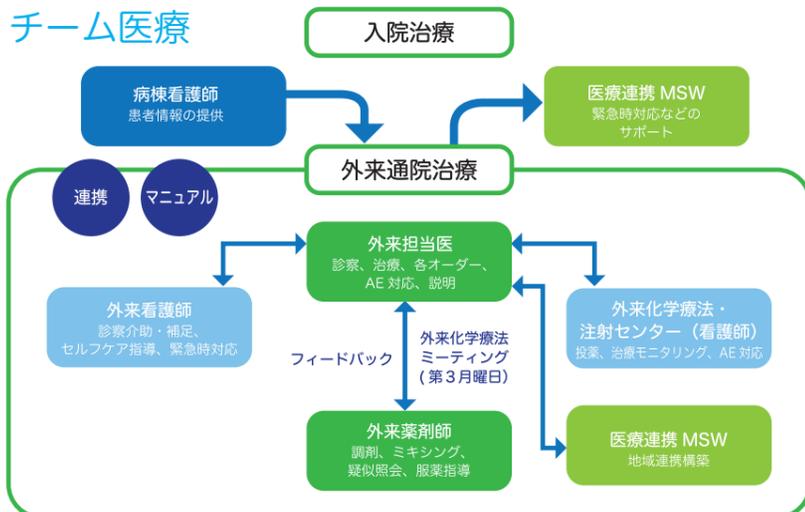
患者さんごとに他科と連携して最適な治療方針を提供しています。薬物療法に関しては日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医(腫瘍内科医)を中心に治療方針決定から臨床実地までを行い、専門性の高い医療を提供しています。

臨床腫瘍科はがんゲノム診療科と緩和ケア科と連携しています。がんの標準療法が効かなくなった場合でも患者さんの状態が安定していれば、がんゲノム診療科で遺伝子パネル検査を行い、新薬・治験などの治療選択肢がないか模索する体制が整っています。一方、がんに伴う症状の緩和については緩和ケア科と医療連携支援センターのサポートのもと患者さん・ご家族のQOLを高められるように心がけています。

\*3ページに関連記事があります。



## チーム医療



## 再建形成外科 | 田中 顕太郎先生

**専門医資格等：**日本形成外科学会専門医、形成外科指導医、皮膚腫瘍外科分野指導医、再建マイクロサージャリー分野指導医、日本創傷外科学会専門医  
**研究領域：**再建外科、組織移植、マイクロサージャリーなど



形成外科という診療科は対象とする疾患や部位、治療法が多岐にわたります。なかでも癌の切除などによって失われた身体の組織を修復し機能と整容性を取り戻す治療を再建手術と言います。再建形成外科



は当院で特に多く行われる頭頸部領域の再建手術を専門に行う診療科として2022年6月、形成・美容外科より独立してスタートしました。

診療科の特徴は、顕微鏡下に細い血管や神経をつなぐ「マイクロサージャリー」という技術を用いる組織移植手術を日常的に多く行うことが可能な高い技術を持っています。

特に頭頸部を中心に、治療が困難な再建手術を必要とする患者さんの治療に積極的に取り組んできたことから、頭頸部診療では日本トップレベルの実績を持ちます。さらに機能強化棟(C棟)が新設されると、治療が難しい頭頸部疾患の患者さんが全国から集まってくるのが予想されますので、一人でも多くの患者さんに常に日本最高レベルの再建手術を提供したいと考えております。

\*3ページに関連記事があります。

## スポーツ歯科外来 | 中禮 宏先生

**専門医資格等：**日本スポーツ歯科医学会認定医、日本スポーツ歯科医学会マウスガードテクニカルインストラクター  
**研究領域：**スポーツ歯科学



当科では、トップクラスのスポーツ選手から広く愛好家レベルの方まで、口・歯・顎の健康の維持・管理・回復・増進を図っています。ジュニアからシニアまで幅広い年齢層の方々に、



歯のトータルケアを通じて、安全かつ楽しいスポーツライフのお手伝いをします。また競技スケジュールや生活スタイルを考慮しながら、選手や愛

好家一人ひとりに寄り添って、トラブルの予防や治療などをすすめていきます。選手や愛好家ご本人からだけでなく、サポートする関係者、ドクター、トレーナーからの相談も承っております。

スポーツのためのデンタルチェック(健診)、一般的な歯科治療、スポーツ外傷事故に関する相談・応急処置・治療およびカスタムメイド・マウスガード(マウスピース)の相談・治療、カスタムメイド・フェイスガードの相談・治療を請け負います。

診療には日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト、日本スポーツ歯科医学会認定医、認定マウスガードテクニカルインストラクターなどの資格を有する歯科医師が対応させていただきます。

## 総合診療科 | 橋本 正良先生

**専門医資格等：**日本内科学会総合内科専門医・内科指導医、日本老年医学会認定老年科専門医代議員、日本プライマリケア連合学会指導医、日本病院総合診療医学会認定医、日本医学教育学会認定医学教育専門家、日本医師会認定産業医、ECFMG certificate, Fellow of the American Academy of Family Physicians  
**研究領域：**総合診療医学



当科では、年齢、性別、疾患にかかわらず様々な身体や心の問題に対して、患者さんとその家族中心の医療を提供します。また、なかなか診断がつかない、または多くの疾患がある、多臓器に係るような疾患で、専門診療科よりも当科がふさわしいと考えられる場合にも診療させていただきます。必要とあれば臓器別診療科や多職種専門家と提携して継続医療を提供します。

初診では特に、病歴の確認や身体診察を丁寧に行うため、お時間を頂くことがあります。検査では侵襲性の少ない超音波を用い、腹腔内や血管病変、血管機能の評価を行っています。また、他の患者さんの緊急性や重症度により順番が前後したり、ご予約の時間を過ぎてお呼びしたりすることもあります。ご了承ください。お薬手帳や過去の健康診断結果、他院での検査結果など、お持ちいただくと診療の助けになります。診断を確定するために、複数回の通院が必要になることがあります。

「総合診療専門医」は2018年度より開始された日本専門医機構が認定する「新専門医制度」において新たに新設された専門医です。患者さんのみならず、家族や地域も考慮します。総合診療医はgeneralと言う名のspecialistです。全人医療を行い日本の医療・医学に貢献します。



病棟チーム回診と、その場での専攻医へのティーチングの様子

## 食道外科 | 春木 茂男先生

専門医資格等：日本食道学会食道外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医(食道)、日本消化器外科学会指導医、日本消化器内視鏡学会専門医など  
研究領域：食道外科、消化器外科、消化器内視鏡



食道外科は、食道の病気の診断と治療を行う部門です。悪性食道疾患(食道癌など)のみならず、良性食道疾患(食道アカラシア、食道裂孔ヘルニア、憩室など)にも対応しています。食道癌に対しては低侵襲治療とされるロボット手術を含めた胸腔鏡・腹腔鏡手術を基本としながら、他の診療科(心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科など)の協力のもと、一般病院やがん専門病院では扱うことが困難な食道癌

に対する診療科横断的な食道癌外科治療を確立していきたいと考えています。また、喉頭機能温存と癌の根治性を両立させた頸部食道癌手術や、胃管再建が困難な患者さんに対する空腸または、回結腸再建術を積極的に行います。

内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科などとの連携をはじめ、頭頸部外科や口腔外科などと協力しながら、同時性・異時性に重複しやすい咽喉頭・口腔領域癌の早期診断・治療にも積極的に取り組んでいきます。

近年特に重視されている栄養サポートチーム(NST)、および緩和ケアチームにも発足時から参加し、患者さんの全人的ケアを心がけています。

食道癌に対する最善の治療法は、同じ病気でも一人ひとり、個々で異なります。進行度・病期(ステージ)を診断したうえで年齢、既往歴、生活環境など患者さんそれぞれの背景を充分に考慮することを前提に、根治切除可能と判断した場合は手術治療を行います。希望に応じて化学放射線療法を行う事もあります。また、進行度に応じた集学的治療(手術、放射線療法、薬物療法、内視鏡治療を組み合わせること)を積極的に行っています。

外科的な治療のみならず内科的な治療も一貫して当科が担っていますので、よりよい方法をその都度相談していきましょう。



食道癌に対するロボット支援下(ダビンチ)手術

## 歯科放射線科 | 三浦 雅彦先生

専門医資格等：日本歯科放射線学会 歯科放射線専門医・指導医  
研究領域：口腔がんの放射線治療、放射線腫瘍学、放射線生物学



当科では、歯科を受診する患者さんの精密な画像検査・診断を行い、歯科口腔領域のあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。また、医系診療部門の放射線治療科と共に口腔がんの放射線治療を実施しています。

診断部門では、歯科放射線専門医が、64マルチスライスCTや3テスラMRI、歯科用コンビームCTを用いて、最新の研究論文などを参考にしながら、疾患ごとに撮像条件や撮像シーケンスの最適化を行った上で、質の高い診断を行っています。

放射線治療部門では、歯科放射線専門医および口腔放射線腫瘍認定医が、口腔がんの放射線治療を担当しています。特に、小線源治療においては、国内最多症例を誇っており、口腔外科、顎顔面補綴外来と密接に連携しながら、切らずに治す治療、高いQOLを保持できる治療を目指しています。また、術後照射などの外照射においては、ほぼ全例、高精度放射線治療であるIMRTを行っています。



## 心臓血管外科 | 水野 友祐先生

専門医資格等：日本外科学会指導医、日本心臓血管外科学会専門医、植込型補助人工心臓実施医、日本循環器学会、日本胸部外科学会、日本人工臓器学会、日本冠動脈外科学会  
研究領域：心臓血管外科学



当科は、一般的な心臓疾患に対し先進的治療を取り入れた外科治療を提供しているだけでなく、重症心不全に対する治療では、補助人工心臓、心筋再生治療など高度な先進的治療の認定を受けた全国でも数少ない施設であることが特徴です。

冠動脈バイパス術は人工心肺を使わない手術を全国に先駆けて行っております。弁膜症では、自己弁を温存、修復して治す弁形成術に取り組んでおり、変性疾患に対する僧帽弁形成術はほぼ100%成功しています。どちらも低侵襲手術への取り組みも行っております。

大動脈疾患に対しては、人工血管置換、ステントグラフト留置(血管内治療)どちらも行っています。また、両方を組み合わせた最新のハイブリッド手術に取り組んでおり、脳・神経学的合併症を起こさずに一次的に低侵襲で広範囲の大動脈を治療する手術を提供しております。先天性心疾患手術では、安全確実な手術を提供しております。

スタッフ全員が、「長期遠隔予後の優れたQuality of lifeの高い手術」とは何かにこだわり、精度の高い最新の心臓大血管手術を、より安全かつ低侵襲に行っております。一般の病院では治療が困難な複合

疾患を合併した重症例こそ、大学病院が担うべき外科医療と考え、重症・緊急にかかわらず、随時手術を受け入れております。妥協なき手術と、他科とのチーム医療による徹底した周術期管理により、総合力として最高水準の外科医療を提供します。



## 先端歯科診療センター | 水口 俊介先生

専門医資格等：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本生体医工学会、日本口腔病学会、日本障害者歯科学会、日本口腔インプラント学会  
研究領域：高齢者歯科学、歯科補綴学



先端歯科診療センターは、それぞれの得意分野を持つ専門医集団がお一人ひとりの患者さんに必要な歯科診療に対して包括的にアプローチし、それぞれの分野でのハイレベルな治療を集約して提供しています。保険制度の縛りにとらわれず、専門医の集団による先端的・高精度で満足度の高い歯科診療を提供します。より多くの患者さんにこの「先端」での診療を「堪能」していただきたい所存です。最先端のデジタル技術、顕微鏡、光CT、レーザーなどにより最先端の治療を行います。

また2029年に歯系診療科の再整備の完了を目指しております。「先端」を中心とした各診療科の有機結合が完成しますのでご期待ください。

## 血液内科・がん先端治療部 | 森 毅彦先生

専門医資格等：日本内科学会認定総合内科専門医、日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医・指導医、日本感染症学会認定感染症専門医・指導医  
研究領域：血液内科学、造血幹細胞移植、日和見感染症、がん化学療法における支持療法



2021年4月に血液内科科長に就任しました。血液内科では血液疾患の診断から治療、そして治療後のフォローアップまで全てのプロセスを担っております。所属する医師全員が「目の前にいる患者さんを助けたい!」という強い気持ちをもって、日々、診療にあたっております。血液疾患の治療は進歩が著しく、新しい薬剤が次々と開発され、診療に導入されております。これらの多くの治療法の中から、一人ひとりの患者さんにとって最適と考えられる治療を、最適なタイミングで提供しております。

また2022年4月よりがん先端治療部部長も務めております。多岐にわたるがん診療に対応するために、がん先端治療部では当院での包括的ながん診療の場を提供し、当院のがん診療のプラットフォームとして機能すべく活動しております。当院でのがん診療が患者さん・ご家

族にとって最適・最良のものになるよう全力でサポートを続けてまいります。

